

## 第4章

# 熊本市の健康づくりにおける重点取組 (健くま重点取組)

関連する3つの計画を一体的に策定するにあたり、それぞれの計画から本市の重要な課題に対応する取組を抽出し、重点的に取り組む「健くま重点取組」を設定します。

健くま重点取組を推進するにあたっては、健康に関心のある人だけに届きやすい取組に偏ることなく、ライフコースアプローチ<sup>23)</sup>や健康に関する正しい知識をもとに判断するヘルスリテラシー<sup>24)</sup>の向上に留意しつつ、本計画期間中に集中的に取り組むことを明確にします。

### 1 若い年代からの運動習慣の定着化と骨粗鬆症の予防

運動やスポーツを習慣的に行っている市民の割合は子どもを含め伸び悩んでいます。また、若い年代からの肥満やメタボリックシンドロームの該当者が増加傾向にある等、将来の健康悪化が懸念されます。生活習慣病の発症や重症化を予防するため、健全な食生活の啓発を行うとともに、運動習慣の定着化を図る必要があります。

また、後期高齢者の傷病別医療費では骨折が第1位であり(図25)、女性の要介護の要因としても骨折・転倒が第1位です。骨粗鬆症は骨折の大きな要因であり、若い時期のやせや閉経後の女性ホルモンの低下等が大きく影響しているため、若い年代からの骨粗鬆症の予防が必要です。また、高齢者では筋力低下による転倒が原因で骨折を起こすことも多いため、筋力を高めることも必要です。

そこで、生活習慣病の予防や悪化防止を図るため、運動に関する社会資源の情報提供や熊本健康アプリの更なる充実を行います。また、女性の健康づくりとして、骨粗鬆症や転倒による骨折を予防するため、骨折予防に関する市民向け講座の実施や骨折リスクチェックリストの普及などに取り組めます。

【図25】 熊本市後期高齢者傷病別医療費

順位	傷病名
1位	骨折
2位	慢性腎臓病(透析あり)
3位	関節疾患
4位	糖尿病
5位	脳梗塞
6位	不整脈
7位	高血圧症
8位	こつそしょう 骨粗鬆症
9位	パーキンソン病
10位	肺がん

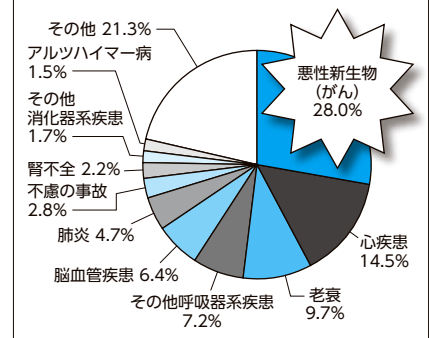
出典:令和2年度KDB(国保データベース)システムデータ

### 2 がん検診受診率の向上

本市のがん部位別死亡率は、男性では肺、大腸、胃、膵臓の順に多く、女性では大腸、肺、膵臓、乳房の順に多くなっています。本市においては、国の指針に基づき、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの5種のがん検診を実施しており、個別勧奨等様々な取組を行うことで、次第に受診率は向上しているところです。また、がんの75歳未満の年齢調整死亡率も減少し続けています。しかし本市の4人に1人ががんで死亡しており(図26)、がんを早期に発見することは依然として重要です。

そこで、がん検診の更なる受診率の向上に取り組めます。

【図26】 熊本市での死亡者の主要死因割合(R2年)



出典:熊本市の保健福祉

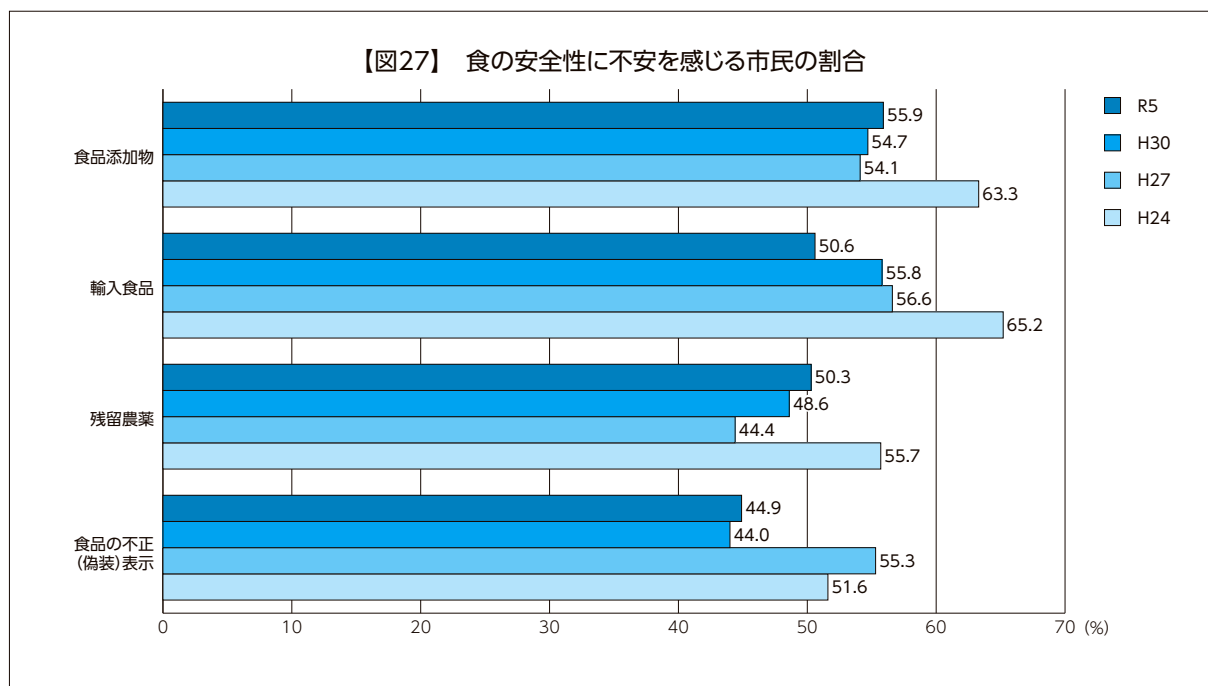
23) ライフコースアプローチ…胎児期から高齢期に至るまで人の生涯を経時的に捉えた健康づくり

24) ヘルスリテラシー…健康に関する様々な情報を入手し、理解し、活用する能力のこと。

### 3 食に対する安心感の向上

本市においては近年、重篤又は大規模な食中毒の発生は無く、おおむね食の安全性は担保されていると言えますが、依然として約半数の市民が食品添加物や輸入食品等に不安を感じており(図27)、食に対する安心感が十分に得られているとは言えません。食の安全性が市民の安心感につながるよう、行政・食品等事業者が一体となった更なる取組が必要です。

そこで、食に対する安心感の向上を図るため、行政・食品等事業者が一体となって食の安全性に関する積極的な情報発信を行うなど市民に食の安全性が見える様々な対策に取り組めます。

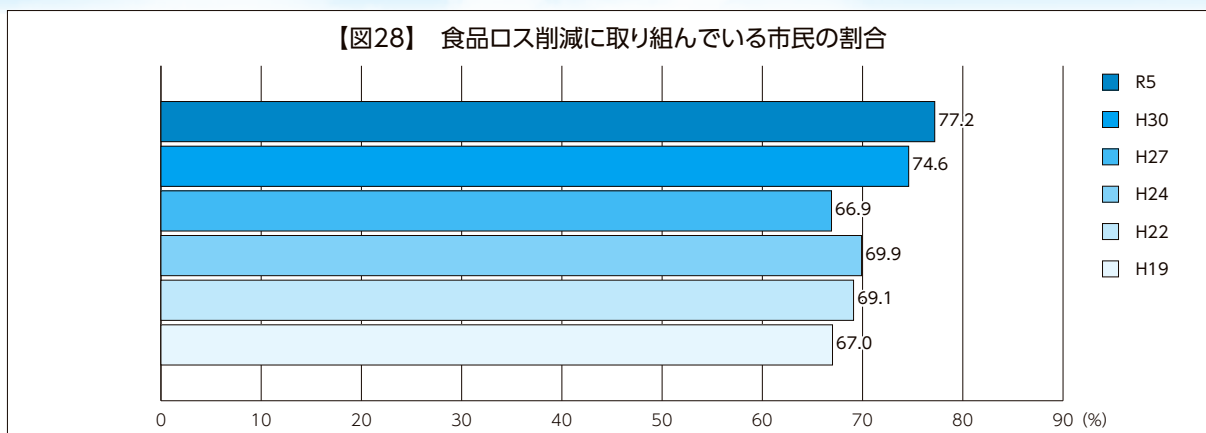


出典:熊本市健康づくりに関する市民アンケート

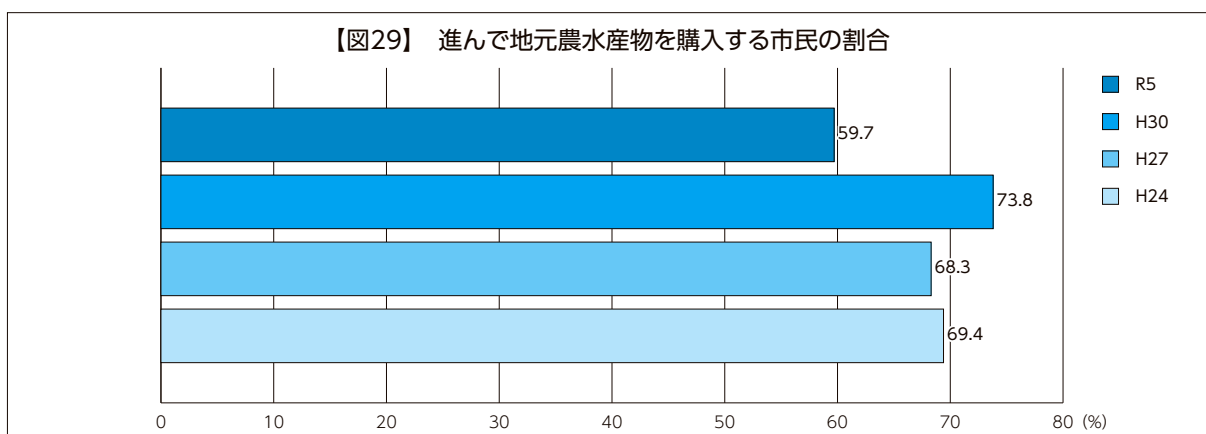
### 4 持続可能な食を支える食育の推進

家庭での食品ロスに取り組んでいる市民の割合や、進んで地元農水産物を購入する市民の割合は、一定の成果はみられるものの目標値には達していません(図28・図29)。私たちの食生活が、くまもとの恵まれた地下水や農水産物など、自然の恩恵の上に成り立つことを認識し、環境と調和のとれた食育を推進することは重要です。また、農林漁業体験や生産者との交流・学校給食を活用した全世代への食育を通して、熊本市の農水産物を知り・味わい・好きになることで、地産地消の促進や郷土料理への理解を深め、伝統的な和食文化を次世代に継承する、持続可能な食を支える食育の推進が必要です。

そこで、持続可能な食を支える食育の推進を図るため、生産者と消費者の交流による食育への理解向上、学校給食や飲食店等への地元産物のPRと活用促進による地産地消の推進、伝統料理や郷土料理に関する情報の収集と発信による伝統的な食文化の伝承等、様々な対策に取り組めます。



出典:熊本市健康づくりに関する市民アンケート

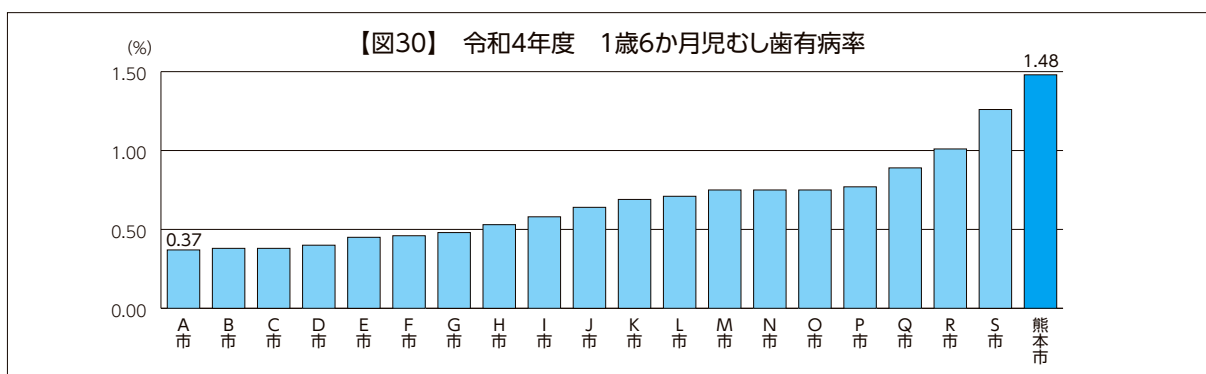


出典:熊本市健康づくりに関する市民アンケート

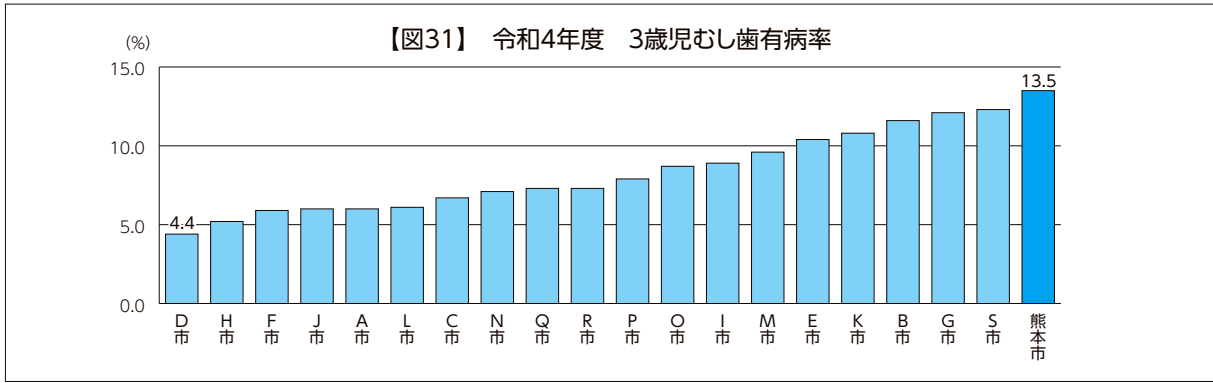
## 5 こどものむし歯有病率の低減

熊本市の1歳6か月児と3歳児健診において、むし歯のあるこどもの割合(むし歯有病率)は経年的に低減しているものの指定都市20市中で最も高い状況が続いています(図30・図31)。生涯を通して健康で豊かな生活を送るために、乳歯の生え始めからむし歯予防を進めていく必要があります。

そこで、こどものむし歯有病率の低減を図るため、予防効果の高いフッ化物を応用したむし歯予防の推進、むし歯予防に関する知識の普及啓発等、関係団体・関係機関と一体となって様々な対策に取り組めます。



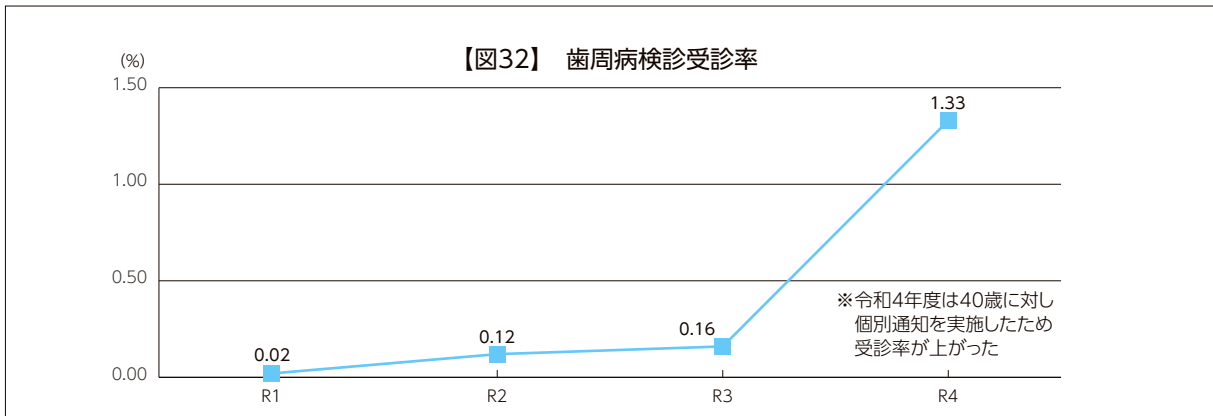
出典:令和5年度政令指定都市母子保健主管課長会議資料



出典:令和5年度政令指定都市母子保健主管課長会議資料

## 6 歯周病有病率の低減

歯周病を有する成人の割合は高く、歯周病検診等の歯科検(健)診受診率は低い状況が続いています(図32)。そこで、歯周病検診(令和5年度からは節目年齢歯科健診)の受診率を向上させ、歯をなくす原因である歯周病等についてライフステージに応じた発症予防・重症化予防の啓発に取り組み、切れ目のない歯科口腔保健を推進します。



出典:熊本市歯周病検診